

## 執筆者紹介

金野純 Konno Jun

松谷暉介 Matsurani Yosuke

小島麗逸 Kojima Reitsu

一九三四年生まれ。大東文化大学名誉教授。中国経済。『中国の経済と技術』『現代中国の経済』『中国の再興と抱える課題』

一九七五年生まれ。学習院女子大学国際文化交流学部准教授。東アジア地域研究、政治社会学、歴史社会学。『中国社会と大衆動員―毛沢東時代の政治権力と民衆』『現代中国政治研究ハンドブック』(共著)『講座 東アジア共同体論 調和的秩序形成の課題』(編著)

加々美美光行 Kagami Mitsuyuki

一九四四年生まれ。愛知大学名誉教授。中国政治。『逆説としての中国革命―近代精神の敗北』『知られざる祈り―中国の民族問題』『未完の中国―課題としての民主化』

川島真 Kawashima Shin

一九六八年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科教授。中国・台湾政治外交史、東アジア国際関係史。『中国近代外交の形成』『近代国家への模索 1894-1925』『二一世紀の「中華」―習近平中国と東アジア』

石井知章 Ishii Tomoaki

一九六〇年生まれ。明治大学商学部教授。中国政治。『K・A・ウィットフォードの東洋的社会論』『現代中国政治と労働社会―労働者集団と民主化のゆくえ』『中国革命論のパラダイム転換―K・A・ウィットフォードの「アジア的復古」をめぐる』

坂井田夕起子 Sakaida Yukiko

愛知大学国際問題研究所客員研究員。東アジア近現代史。『誰も知らない「西遊記」―玄奘三蔵の遺骨をめぐる東アジア戦後史』『中華人民共和国の対外工作と佛敎(1952-1966)』『戦時上海の「仏敎復興」試論―真宗本願寺派や中支宗教大同連盟との関係を中心に』

水谷尚子 Mizutani Naoko

中央大学経済学部兼任講師。中国近現代史。『革命的東トルキスタン』紙のタタール人記者ムニール・イブラギモヴィチ・イエルズイン回想録―キルギス共和国のウイグル人』『中国を追われたウイグル人―亡命者が語る政治弾圧』

松本ますみ Matsumoto Maumi

室蘭工業大学工学研究科教授。中国近現代史、中国の国民統合。『中国民族政策の研究―清末から一九四五年までの「民族論」を中心に』『イスラームへの回帰―中国のムスリマたち』『中国のムスリムを知るための六〇章』

## 加藤 徹 Kato Toku

一九六三年生まれ。明治大学法学部教授。中国文化。『京劇―政治の国の俳優群像』『漢文力』『西太后―大清帝国最後の光芒』

## 辣椒 La Jiao

一九七三年生まれ。本名、王立銘。漫画家、グラフィック&デジタルアーティスト。中国政治漫画、ソーシャルメディア発信。『マンガで読む 嘘つき中国共産党』『なぜ、習近平は激怒したのか―人気漫画家が亡命した理由』(イラスト)

## 高口康太 Takaguchi Kōta

フリージャーナリスト。中国経済・社会・文化。『現代中国経営者列伝』『なぜ、習近平は激怒したのか―人気漫画家が亡命した理由』『契約金額は急騰したが 中国のアニメ爆買いはどのくらいまで続く』

## 林 少陽 Lin Shaoyang

一九六三年生まれ。東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻准教授。表象文化

論。一九世紀初頭以来の日本と中国の思想史・文学史。『修辭』という思想―章炳麟と漢字圏の言語論的批評理論』『文』與日本学術思想―漢字圏1700-1990』

## 藤谷浩悦 Fujiya Koetsu

駒澤大学非常勤講師。中国近代史。『湖南省近代政治史研究』『戊戌政変の衝撃と日本―日中聯盟論の模索と展開』『中国僧の訪日と水野梅暁―楊度の批判を中心に』

## 吉原ゆかり Yoshinara Yukari

一九六四年生まれ。筑波大学人文社会科学系准教授。比較文学。『一九三〇年代〜五〇年代のジョージ・H・カーと環太平洋文化交流の地政学』『明治に環太平洋でロビンソンする―田中鶴吉と小谷部全一郎―どっちだってグローバル―漫画/mangaとシェイクスピア』

## 加治宏基 Kaji Hiromoto

一九七四年生まれ。愛知大学現代中国学部助教。現代中国外交論、アジア国際関係論。『米国が規定した「中華民国」の対外援助政策―キッシンジャーの「中国論」が暗示した課題』『国連開発データベースの中国による

受容と政策展開』『教養としてのジェンダーと平和』(共編著)

## 三好章 Miyoshi Akira

一九五二年生まれ。愛知大学現代中国学部教授。中国近代史、中華人民共和国教育史。『摩擦と合作 新四軍1937-1941』『叙事詩の時代の抒情』(翻訳)『根岸信著作集』全五巻(編)

## 学会通信

◎学会員活動(二〇一七年一月〜二〇一八年三月) 梅田康子

学会報告など「国際化時代における国内外のインターンシップ事例報告」(大学管理行政学会中部・北陸地区研究会、二〇一七年一〇月二一日)

### 加治宏基

学会報告など「中華民国の戦後処理政策―アジア太平洋の戦争犯罪への対応について」(愛知大学・大連理工大学・遼寧師範大学・大連大学主催国際シンポジウム「文

化の記憶―虚構の力を考える」於愛知大学、二〇一七年十一月一日）、「習近平の中国をどう見るか―中国共産党と東アジアの平和」（立命館大学国際地域研究所重点プロジェクト「紛争・平和構築研究」平和主義研究会、二〇一七年度第四回研究会、於立命館大学、二〇一八年二月一七日）

川村亜樹

書評「ノーランのバットマンシリーズにおける真の悪役は誰か―トッド・マガウアン『クリストファー・ノーランの嘘―思想で読む映画論』、井原慶一郎訳」（『日本映画学会会報』第五二号、二〇一七年一月）

学会報告など「民族的トラウマに対抗する性的語り―Louise Edrich, *The Round House*」（アメリカ文学会中部支部ワークショップ、於愛知大学、二〇一七年二月九日）

黄英哲

書評「融合の地・香港文学史の構築―『香港文学大系 1919-1999』を評す」（『中国21』Vol.47、二〇一八年一月）

学会報告など「香港金門同郷会について―（廈門金門研究国際ワークショップ、於福建金門大学、二〇一七年二月二七日）

唐燕霞

学会報告など「蘇南新型都市化モデルについての試論―常州市の事例を中心に」（愛知大学・大連理工大学・遼寧師範大学・大

連大学主催国際シンポジウム「文化の記憶―虚構の力を考える」於愛知大学、二〇一七年十一月一日）、「蘇南新型城鎮化模式的探討―以常州市為例」（第三屆東吳蘇州城市发展論壇「城市治理的新挑戰」於東吳大学、二〇一七年一月二五日）

松岡正子

「ギャロン・チベット族における「礪」の記憶と資源化―四川省丹巴県の「礪」を事例として―塚田誠之・河合洋尚編著「中国における歴史の資源化の現状と課題」国立民族学博物館調査報告142、二〇一七年二月）

学会報告など「被災後のコミュニティ再建と村規民約」（愛知大学・大連理工大学・遼寧師範大学・大連大学主催国際シンポジウム「文化の記憶―虚構の力を考える」於愛知大学、二〇一七年一月一日）、「村落重建與村規民約―以二〇〇八年汶川地震後中国四川羌族農村為事例」（第三屆東吳蘇州城市发展論壇「城市治理的新挑戰」於東吳大学、二〇一七年一月二五日）

## 中国21 Vol.49 予告（18年10月刊行予定） 特集●華西辺疆研究

華西とは、四川、雲南、貴州、西藏、甘肅、青海等を含む地域を指す。二〇世紀初め、四川省成都では、華西学派とも称される、華西辺疆を対象とした社会学・人類学の民族研究が開いた。その中心は、ミッション系の華西協合大学（一九一〇―一九五三）によって設立された「華西辺疆研究学会」である。同学会は抗日戦争期に成都に移ってきた燕京、齐鲁、金陵等の六大学の研究者とともに各地でフィールドワークを行い、多くの成果を得た。『華西辺疆研究学会雑誌』（一九二二―一九四七）は年二回、世界にむけて公刊された英文雑誌で、一六卷二二冊、約三四〇篇の論文が収録されている。その内容は華西の民族に関する人類学、考古学、言語学、歴史学、民俗学、社会学、宗教学、地理学、地質学、生物学等に及び、とりわけチベット族、チャン族及び周辺民族の成果が傑出している。しかし、全てが英文であったため、当時は国内よりも国外で注目され、中国で本格的に研究されるようになったのは近年のことである。華西辺疆は、なお未検討の資料が多く残された地域である。本号では、新たな視点による研究に挑戦する。

編集後記——本特集編集の最終段階に入っているとき、中国で国家主席の任期を撤廃する方向、とのニュースを新華社が流した。新たな個人崇拜が懸念されていた矢先であり、毛沢東時代の再来を予感させる報道でもあった。はたして、文革は遠くに過ぎ去って、もはや蘇ることはありえないのか。◇冷戦崩壊と深く関わる「六四」から、すでに三〇年以上が経った。この間、日本は率先して対中投資を行い、九〇年代の中国を「世界の工場」と呼び、二一世紀は中国の世紀だと浮かれていた。「世界の工場」とは低賃金労働力を中国に求めていただけであり、中国は「農民工」などでそれに応えた。その結果が格差を拡大させながらの大国化であった。一方民主化は、その妥当性も含めて検討しなければならぬにせよ、「改革」とはほど遠い現状である。◇「中国夢」という習近平のスローガンは、ナシヨナリズムに足を据えている。「一帯一路」が新たな「租界」建設であっても、国内的には「雷鋒同志に学べ！」の標語やポスターと一緒に、「厲害了、我的祖国！」（すごいぜ、わが祖国）などの言葉が一人歩きしている。日本のネットウヨがよろこぶ「ニッポン、スゴイ！」という勝負だろう。◇文革の特殊と普遍を考えることが、本特集の根柢にあった。すでに御執筆いただいた方の中で議論が起きている。新しい討論のきっかけとなれば、幸いである。

(三好章)

投稿原稿募集 新しい発想から現代中国をめぐる諸問題に切り込む、気鋭の論者を広く募集します。現代中国に関するテーマであればジャンルは問いません。むしろ、既存の学問のジャンルを打ち破るような斬新な発想を期待します。①未発表のものに限る ②論説、研究ノート、報告・ルポ、資料等=50枚程度、書評=20枚程度、エッセイ=10枚程度(400字詰原稿用紙換算) ③ワープロソフトで作成した原稿の打ち出し2部およびデジタルデータを提出。デジタルデータはeメールでの送信も可。

〈原稿送付先〉愛知大学現代中国学会 E-mail: china21@ml.aichi-u.ac.jp

投稿規程の詳細は現代中国学会までお問い合わせ下さい。採否は編集委員会の検討を経て決定し、採用にあたっては規定により薄謝を進呈します。なお、応募された原稿は採否にかかわらず返却いたしません。

中国21編集委員会

〔編集長〕松岡正子 加治宏基 木島史雄 黄英哲 高橋五郎 三好章

愛知大学現代中国学部 <http://www.aichi-u.ac.jp/college/chi.html>

中国21 Vol.48

特集 いまさら文革、いまなお文革、  
いまこそ文革

2018年3月30日発行

ISBN 978-4-497-21810-0 C3036

編集	愛知大学現代中国学会 名古屋市中村区平池町4-60-6 〒453-8777 Tel. 052-564-6128 Fax. 052-564-6228
発行人	安部 悟
発売元	株式会社 東方書店 東京都千代田区神田神保町1-3 Tel. 03-3294-1001
制作印刷	株式会社 あるむ 名古屋市中区千代田3-1-12 Tel. 052-332-0861